



中部大学春日丘高校 SGH課題研究

グローバル課題4領域について知り・気づき・探る学習 ～ 国際ビジネス ～

I 取り組みの概要(4時間完了)

- 事前学習：6月14日(火)7限目
- 講演とグループ討論：6月24日(土) 3. 4時間目 中部大学55号館
 外部講師：伊藤健太郎さん(大垣共立銀行 調査役・海外ビジネスアドバイザー)
 内山茂浩さん(パナソニックエコシステムズ 執行役員・ビジネスユニット長)
- 事後学習：6月21日(火)7限目

II 事前学習

今回はグローバル課題研究の2つ目の実践で、国際ビジネスについて学びました。事前学習としてJTBが作成したビデオ教材を用いて、急速に進むグローバル化の中、国境を越えたビジネスがどのように展開されているのかの概略を学びました。またCSR、フェアトレード、BOPといったキーワードも理解しました。

III 外部講師による講演

●講演第1部

1人目の講演者は、大垣共立銀行の伊藤健太郎さんです。伊藤さんは、大垣共立銀行ホーチミン駐在員事務所について最近まで5年間お勤めでした。近年の経済成長著しいベトナムの様子について、スライドを多く用いて分かりやすく解説されました。

ベトナムは人口9200万人で、街は活気にあふれ、特にバイクは1人1台と言って良いほど普及しているとのこと。外資系企業の進出が盛んで、日系企業もすでに2000社が進出しているそうです。大垣共立銀行のホーチミン事務所は、こうした現地で活躍する顧客のために様々なアドバイスをする、言わば水先案内人の役割を果たしているそうです。また、渋滞緩和のために地下鉄の建設が進められていること、日本食がブームとなっていること、さらに日本のマンガも流行していることなどを話され、生徒たちは大いに興味をかき立てていました。また、ホーチミン市の名前の由来である、独立の指導者ホーチミンについても歴史的な背景を踏まえつつ解説されました。ベトナムの紙幣は全てホーチミンの肖像が描かれているそうです。

また、社会主義国であるベトナムにしては珍しく反中デモがおきたことや、そのデモに際しても日系企業は被害が無く、とても親日的な国であることを説明されました。一方、医療の面ではまだ多くの課題を抱えており、医師や病院は不足しており、これからの課題であることが理解できました。

そして、5年間のベトナム勤務について、とてもプラスになる経験であったことを強調されました。5年間で培われたベトナム人との絆、共に働いた日本人駐在員との絆は実に貴重であること、そしてベトナムの将来性への期待、また海外に出て分かる日本のすばらしさなども説明されました。生徒たちには、将来海外に出る機会があるならば是非行って欲しい、迷ったら海外へと強く勧められました。



●講演第2部

2人目の講演者は、パナソニックエコシステムズの内山茂浩さんです。パナソニックは言うまでもなく松下幸之助さんを創業者とする日本有数の大企業であり、海外事業も幅広く展開しています。パナソニックエコシステムズの旧名は松下精工と言い、春日井市に本社があるという、私たちにとっても身近な存在です。内山さんは、入社以来マレーシア、ホンコン、タイ、中国と海外経験が豊富な方で、とても明快到興味深い講演をされました。

パナソニックエコシステムズの基本方針は「お困りごと」への対策であり、人々が困っていることへの支援をビジネスとしています。事業としては、空気を清浄に保つための換気扇、扇風機、水を得るためのポンプを扱っているとのことでした。特に換気扇については累計1億8000万台を提供し、北米では省エネ認定を受けるほど優れた商品です。

今回の話のメインは、インドネシアでのポンプ事業です。インドネシアは急速に経済発展を遂げていますが、地方ではまだ電力状況は良くありません。一般家庭では、他の電化製品と同時に水汲みポンプを使用するとブレーカーが落ちてしまうようで、多くの人々は手作業で井戸から水汲みをしている状態です。そこで消費電力が少ないポンプを開発して提供し、人々の生活改善に大きく寄与されています。人々は日々の水汲みから解放されるという、まさに「お困りごと」を解決する会社の方針に沿った事業であり、これについてスライドを多用しながら分かりやすく説明をされました。

また、海外から見た日本について、電車・飛行機の時間が正確ですばらしい国であること、一方で改善すべき点として、国際感覚をより身につけることや語学力を磨くことが必要とも言われました。海外では言語の学習に熱心で、しかも習得が速いそうです。同時に、私たちが日本のことをよく理解し、海外の人々に対して日本がどのような国であるか説明できることが大切であると話されました。

IV グループディスカッションと講演者への質問

後半の取り組みは、生徒によるグループディスカッションです。講演を聴いて、さらに知りたいことを班で1つ選び、講演者に質問をしました。以下にその例を挙げます。



●大垣共立銀行の伊藤健太郎さんへ

○病院が不足しているとのことですが、医療関係への融資は行わないのですか。

→伊藤さん：支店ではないので融資はしませんが、眼科などの開業へのサポートはできます。

○街では電線が多いのはなぜですか。

→伊藤さん：電話以外のケーブルが多いからです。ベトナムは固定電話の時代を飛び越えてケータイの時代に入っていますが、ネットケーブルなど様々なラインが混在しています。

○今後、海外でやりたい事業は何ですか。

→1社でも多く海外展開できるようにお手伝いをしたいです。

●パナソニックエコシステムズの内山茂浩さんへ

○インドネシアで供給しているポンプは無料ですか。

→内山さん：サンプルは無料です。気に入れば購入していただきます。

○インドネシアにも現代的な生活は必要なのですか。

→内山さん：皆さんはケータイが無い生活を想像できますか。無いと大変です。便利なものがあれば、それを求める人は当然いるわけです。世の中は発展し続けますから。

○パナソニックエコシステムズの製品で生活が改善されている国や地域はどこですか。

→北米、中南米、アジア、中近東では我が社の製品は普及しています。アフリカやヨーロッパはまだこれからです。



●講演を聞いて

今回は金融業、製造業において第一線で活躍されている企業の方から、とても有意義なお話をさせていただきました。お二人の話に共通する点は、海外のお客が何を求めているかを的確にとらえ、そのお手伝いをするという事です。人々が助言して欲しいこと、困っていることに親身になって対応することでビジネスチャンスが生まれるということです。また、ベトナムとインドネシアは本校のSGH学習においても具体的な訪問先、研究対象国であり、それらの国の様子がよくわかりました。そして、海外で仕事をする事のすばらしさ、国際社会において日本人として心得たい事柄も教えていただき、貴重な学びの場となりました。改めて講演いただいた大垣共立銀行の伊藤健太郎さんと、パナソニックエコシステムズの内山茂浩さんにお礼を申し上げたいと思います。

V 事後学習

大垣共立銀行、パナソニックエコシステムズという具体的な企業の活動とその意義を学んだ上で、まとめの事後学習を行いました。資料を用いて途上国における乳幼児の栄養改善、ボルネオ島での自然保全事業、災害発生時の物資の輸送、コーヒー生産を通じた自立支援といったテーマから1つを選び、他の班員にそれを伝えるという実践です。

事前学習も含めて、多岐にわたる事例に触れ、生徒は国際ビジネスの一端が理解できました。国内・国外を問わず、ビジネスとは需要があるところに生まれるものであり、その需要には相手の人々が何かを求めているかという視点が必要であることが理解できました。また、ビジネスを通じた海外支援も同時に行うことができることも実感できる学びとなりました。

